

第3章 街路樹・公園樹管理の基本的な考え方

本章では、前章までの街路樹・公園樹の現況や課題、また、上位計画等を踏まえ、本市の街路樹・公園樹のあり方、目指すべき街路樹・公園樹の将来像と目標を定めます。

3-1 街路樹・公園樹の維持管理の基本的な方向性

街路樹・公園樹の役割

街路樹・公園樹は、都市の景観・快適性向上や環境保全に貢献するなど、都市の価値を高め、市民生活を支える重要な都市インフラ

これまでの街路樹・公園樹の方向性

- ✓ もともと自然のみどりに恵まれず、市街化が進行しており、緑化の拡大余地が少ない環境。
- ✓ 本市では、1955（昭和30）年代以降、積極的に植栽をし、緑の量の拡大を進めた結果、一定の緑のストックを形成。
- ✓ そのときどきの時代のニーズに応じた政策・施策により、緑の量的拡大だけでなく、質的向上も進めてきた。



一方で、人口減少や物価高騰、気候変動、市民ニーズの多様化等の社会情勢の変化などにより、街路樹・公園樹では、様々な課題が顕在化

街路樹・公園樹管理にかかる課題

街路樹・公園樹にかかる課題を3つの視点から整理すると以下のとおり。

- | | |
|-------------|--|
| 《樹木生育上の課題》 | 健全性の低下、環境への不適合、老木化の進行 |
| 《利用者から見た課題》 | 樹木を起因とした道路や公園の安全性の低下
強めの剪定などによる快適性の低下、景観の悪化 |
| 《管理者から見た課題》 | 限りある予算、品質維持・向上、
業務の効率化、樹木の価値・情報の発信 |



こうしたことから、本市におけるこれからの街路樹・公園樹の管理の方向性は、以下のようなことが求められます。

これからの街路樹・公園樹管理の方向性

- 都市インフラとして**健全な樹木の保全育成を目指す**
- 定期的な点検による蓄積したデータに基づきながら計画的に適時適切な剪定を実施するなど、樹木管理のDXを強力に進めながら、**中長期的な視点で樹木の生育環境に応じた計画的な保全育成に取り組む**
- 市民・事業者等と情報共有しながら連携するなど、**樹木を共に育てるしくみづくりに取り組む**

3-2 街路樹・公園樹管理の目標及び基本的な考え方

(1) 街路樹・公園樹の維持管理目標

本市では、これからの街路樹・公園樹管理の方向性を踏まえ、維持管理目標を次のとおり設定します。

街路樹・公園樹の維持管理目標

市民生活を支える都市インフラとして**安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮**できるよう、**道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成**

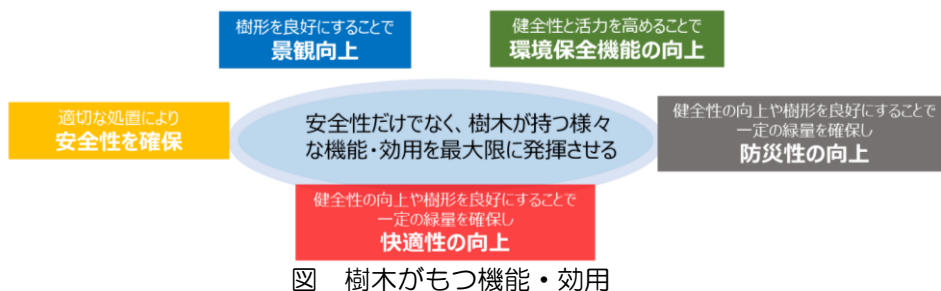


図 樹木がもつ機能・効用

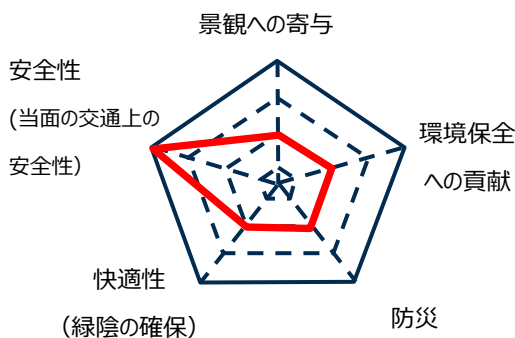
《解説①》「安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮」とは？

ここでは、「安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮」について、具体的にどのようなイメージかを写真や概念図で示します。

強めの剪定により、安全性は確保されているものの、その他の機能・効用が十分に発揮できていません。



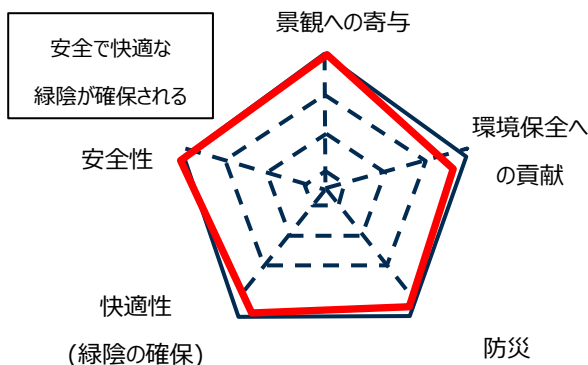
現在の樹形



樹木の剪定手法や剪定頻度、樹木の配置を見直すことで、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮させます。



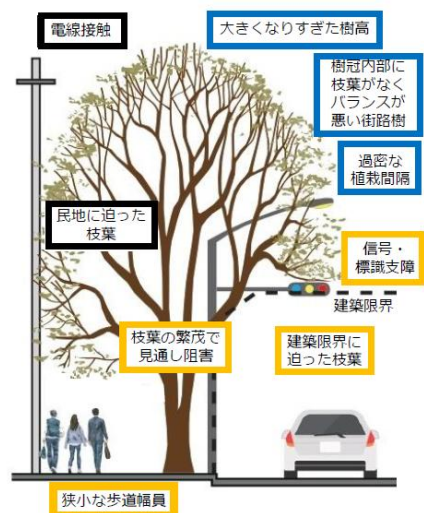
目標とすべき樹形



👉 《解説①》 「安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮」とは？

ここでは、維持管理目標における「安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮」するとは、具体的にどのようなイメージかを詳しく解説します。まずは、街路樹を対象に現状の具体的な問題を上げ、今後、本戦略に基づく取組後にこれらの問題がどのように解決されるかを示し、それらによってどのような機能・効用が向上するかを下図のとおり示します。

現状の問題



樹木が大きく生長することで、道路交通等の安全性が低下しています。また、枝葉のバランスも悪く景観が悪化しています。

P42 図中説明の枠線は、樹木がもつ機能・効用を示す

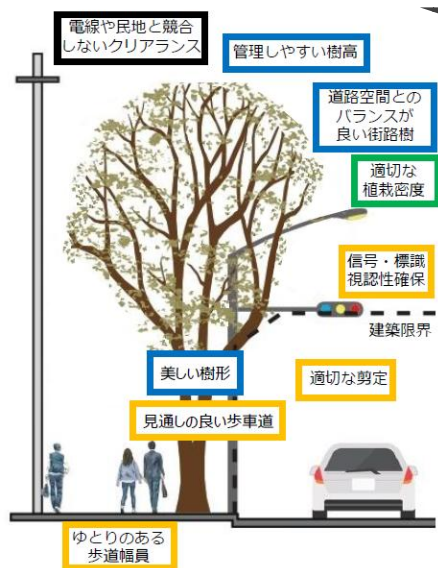
- 景観
- 防災性
- 環境保全機能
- 快適性
- 安全性

【街路樹編】

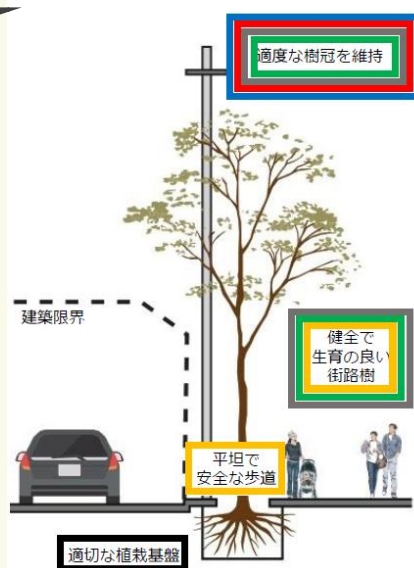


強めの剪定で樹冠が小さく、病虫害の発生や腐朽などの生育不良を起こしています。倒木の恐れや根上りによる転倒など、道路交通の安全性低下だけでなく、緑量が少ないため、環境保全や防災性だけでなく快適性の低下、景観悪化を招いています。

今後イメージ



目標の樹形と樹高を定め、定期的に剪定することで、道路交通等の安全性が確保されるだけでなく、美しい街路樹が形成され景観が向上します。



大木化した樹木を更新することで、安全性が向上するだけでなく、環境保全や防災性、快適性や景観の向上が期待できます。

👉《解説①》「安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮」とは？

維持管理目標における「安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮」するとは、具体的にどのようなイメージかを解説します。

次に、公園樹を対象に具体的にどのようなイメージかを解説します。

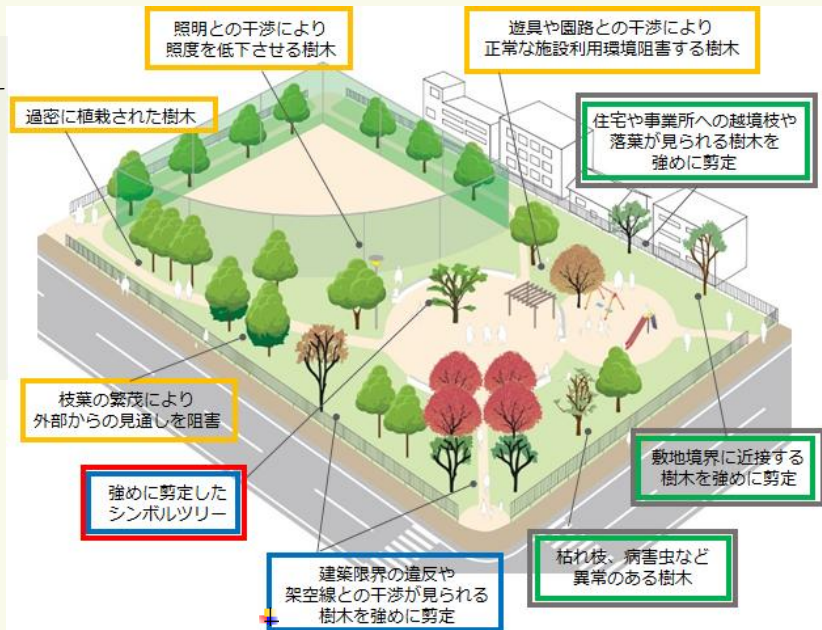
現状の問題

【公園樹編】

例えば、取組前の黄色のみで囲われた部分は、強めの剪定で樹冠を小さくし、安全性は確保されていますが、景観や快適性などの機能は十分に発揮されていません。

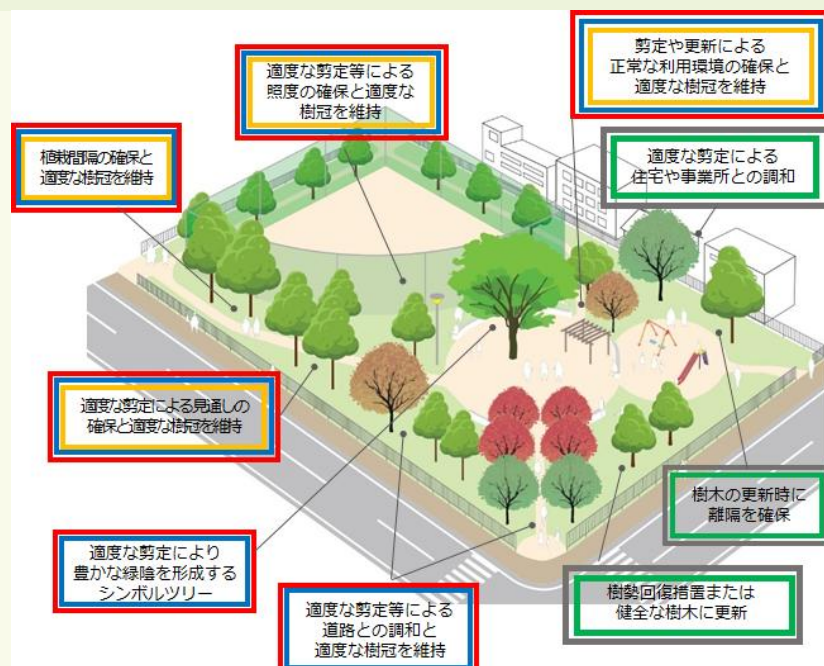
P42 図中説明の枠線は、
樹木がもつ機能・効用を示す

- 景観
- 防災性
- 環境保全機能
- 快適性
- 安全性



今後イメージ

取組後は、適切な剪定方法や頻度で管理を行うことで、適度な樹冠を維持し、環境保全や防災性だけでなく、快適性や景観などの機能・効用の向上が期待できます。



《解説②》「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とは？

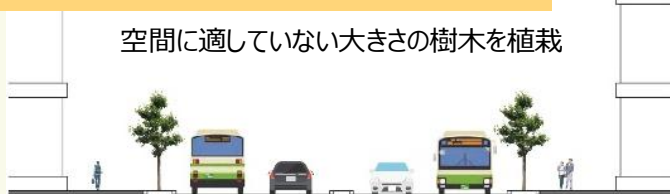
維持管理目標における「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とするとは、具体的にどのようなイメージかを解説します。

■植栽環境に応じた適正な樹木の配置や樹種の見直しについて

【街路樹編】

将来めざす樹木の大きさ（目標樹形・樹高）を考慮して、空間の大きさに適した間隔や位置で樹木を植栽し、樹種を選定します。これにより、自然樹形に近い形で樹木の大きさをコントロールし、無理のない持続的な管理が可能となります。

空間にゆとりのある広い場所でのケース



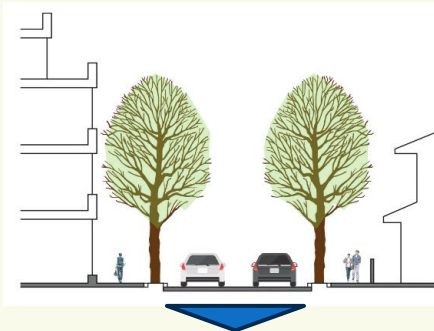
空間にゆとりがあるにも関わらず、樹木がもつ機能・効用を十分に活かされていない



上記のような問題が一定解消される

空間にゆとりのない狭い場所でのケース

空間に適していない大きさの樹木を植栽



将来、根上りや視距阻害などの問題が発生する可能性が高く、丁寧な剪定が必要となり、維持管理費も増える

空間に適した大きさになる樹木を植栽



上記のような問題が一定解消される

👉 《解説②》「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とは？

維持管理目標における「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とするとは、具体的にどのようなイメージかを解説します。

■ 植栽環境に応じた適正な剪定方法や剪定頻度の見直しについて

将来めざす樹木の大きさ（目標樹形・樹高）を考慮して、樹木にできる限り負担をかけないように適切な頻度で剪定し、空間に適した大きさに維持します。これにより、本来の自然樹形に近い形で樹木の大きさをコントロールし、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮することができます。

空間にゆとりのある広い場所でのケース



安全を重視し強めの剪定

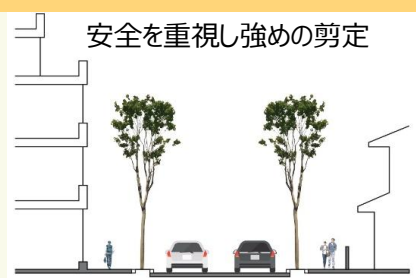
空間にゆとりがあるにも関わらず、樹木がもつ機能・効用を十分に活かしきれていない

樹木に負担のかからないよう適切な剪定頻度で空間に適した大きさに維持する



上記のような問題が一定解消される

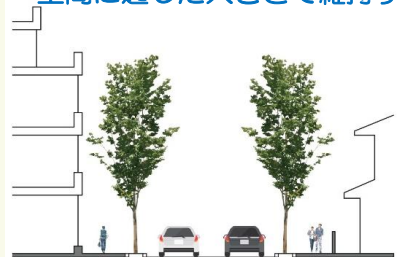
空間にゆとりのない狭い場所でのケース



安全を重視し強めの剪定

強めの剪定により、景觀が悪化するだけでなく、樹木にも負担がかかり健全性が低下する

樹木に負担のかからないように、適切な剪定頻度で空間に適した大きさに維持する



上記のような問題が一定解消される

👉《解説②》「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とは？

維持管理目標における「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とするとは、具体的にどのようなイメージかを解説します。

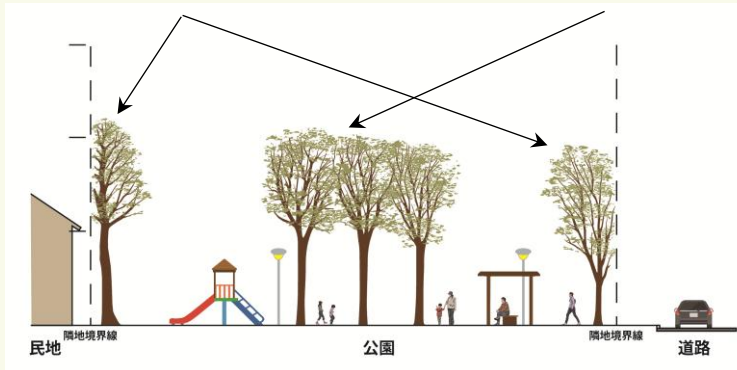
■植栽環境に応じた適正な樹木の配置や樹種の見直しについて

【公園樹編】

将来めざす樹木の大きさ（目標樹形・樹高）を考慮して、空間の大きさに適した間隔や位置で樹木を植栽し、樹種を選定します。これにより、自然樹形に近い形で樹木の大きさをコントロールし、無理のない持続的な管理が可能となります。

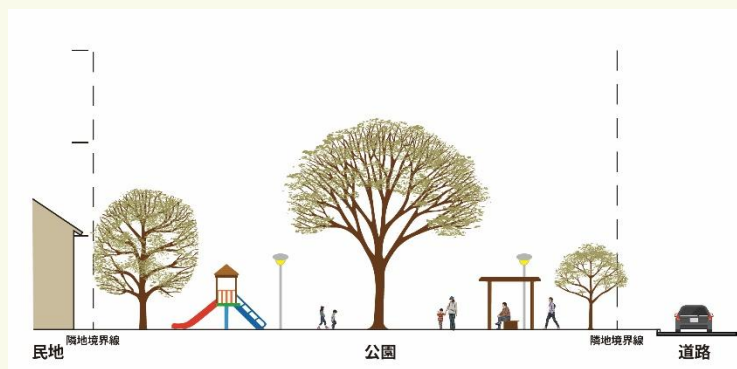
道路や民地に隣接して樹木を配置し、
枝が越境するため、やむなく強めの剪定

緑量を確保するため密に植栽した結果、
樹木同士が競合している



空間に適した樹種を適正な位置に配置できていないため、樹木がもつ機能・効用を十分に活かしきれていない

空間に適した大きさになる樹種を適正な位置に植栽



上記のような問題が一定解消される

👉《解説②》「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とは？

維持管理目標における「道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成」とするとは、具体的にどのようなイメージかを解説します。

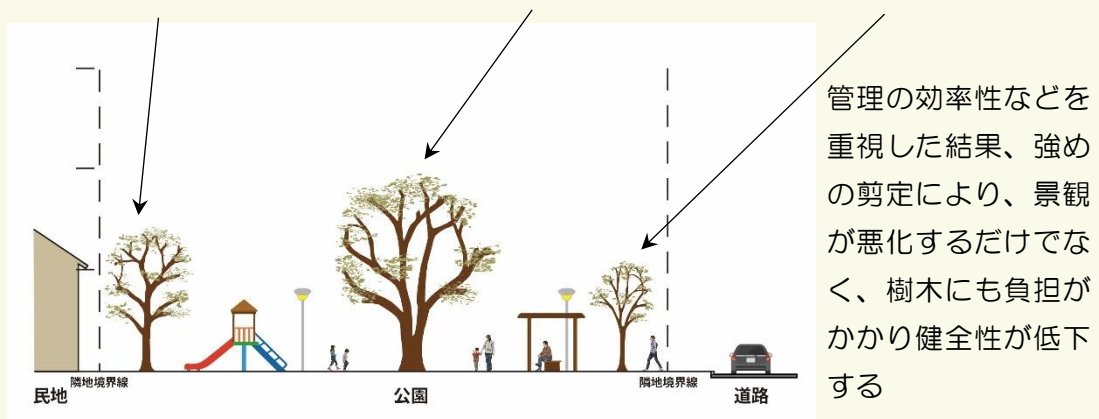
■植栽環境に応じた適正な剪定方法や剪定頻度の見直しについて 【公園樹編】

将来めざす樹木の大きさ（目標樹形・樹高）を考慮して、樹木にできる限り負担をかけないように適切な頻度で剪定し、空間に適した大きさに維持します。これにより、本来の自然樹形に近い形で樹木の大きさをコントロールし、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮することができます。

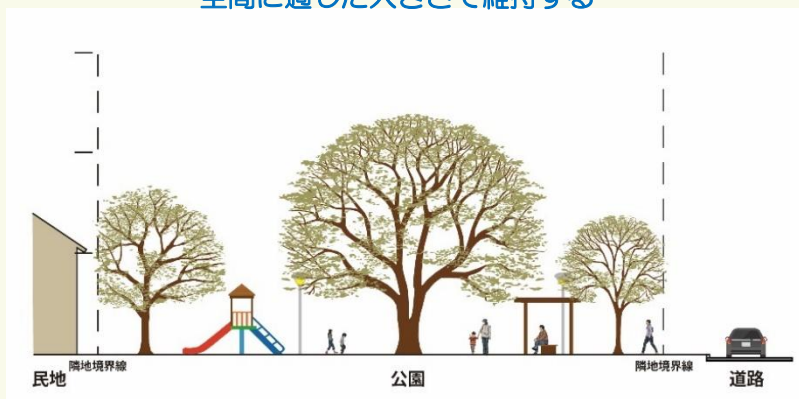
隣接する民地へ枝葉が越境しないように強めに剪定

維持管理の効率性を重視し、強めに剪定

隣接する道路へ枝葉が越境しないように強めに剪定



樹木に負担のかからないよう適切な剪定頻度で
空間に適した大きさに維持する



上記のような問題が
一定解消される

（2）街路樹・公園樹の将来像

大阪市では、街路樹・公園樹の維持管理目標を達成することにより、次のようなまちづくりを進めます。

健全な樹木の育成により安全で快適な暮らしやすいまち

- 見通しがよく安心して利用（通行や滞在）できる道路や公園
- 緑陰のある道路や公園で季節の彩りを感じるなど美しい景観と快適で居心地のよい空間
- 樹木による二酸化炭素吸収量の増加など環境改善効果

身近なみどりが市民に利用され交流を生み 市民ひとりひとりのくらしが豊かになる

- 緑陰のある快適な公園でイベントなどが多く行われ公園が賑わう
- SNSやHPをきっかけに身近な樹木に関心をもつ人や愛着をもつ人の増加
- みどりのまちづくりにおいて市民協働が活発化

【街路樹・公園樹による市域全域でのまちづくりのイメージ】

大阪市緑の基本計画〈2026〉（案）では、下図のようなみどりの将来像（模式図）をめざしており、同計画において、市域全域及びみどりの都市魅力を創出エリアのそれぞれで、街路樹・公園樹の維持管理にかかる2つのプロジェクトを設定しています。



(3) まちづくりを実現するための道路毎の街路樹将来イメージ

道路構造令の解説と運用（令和3年3月公益社団法人 日本道路協会）において、道路の機能には、大きく交通機能と空間機能の二つがあり、利用対象に応じた内容などが示されています。

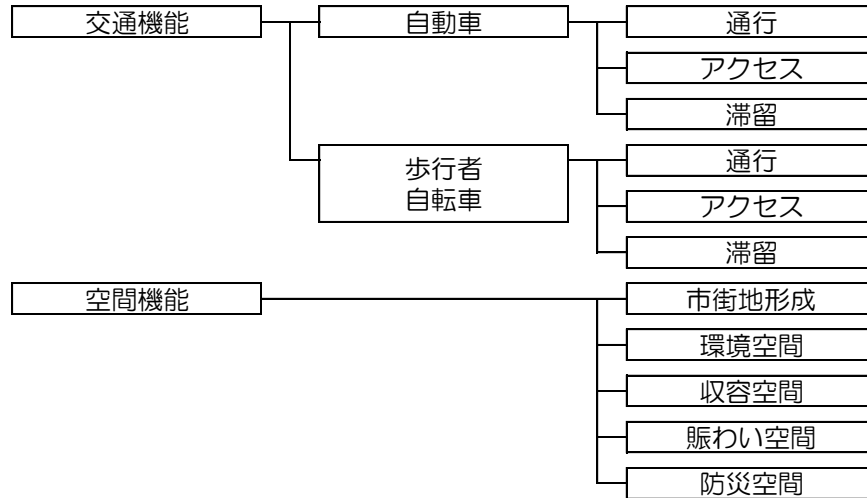


図 道路の機能

出典：道路構造令解説と運用（令和3年3月公益社団法人 日本道路協会）

良好な都市空間を形成するため、道路の機能のうち、交通機能だけでなく、空間機能も重要な役割となります。

道路緑化を行う場合は、交通機能の確保を前提としたうえで、景観形成や緑陰の確保等の観点から、関連計画との整合を含めて必要性を検討し、地域の空間形成を図るものとします。さらに、空間機能として、災害に強い防災空間の形成に向け、植栽による延焼防止を図る必要がある場合は、遮蔽効果のある植栽を行うことが望ましく、樹種や緑量を考慮する必要があります。

これらを踏まえ、樹木の植栽や更新にあたっては、従前の植栽にこだわらず、道路の利用状況や沿道状況等の変化を考慮する必要があります。また、道路空間の美化や無電柱化、道路環境への配慮等、道路緑化を含めた道路に求められる機能も多様化しています。

道路緑化に求められる機能を総合的・効果的に発揮させることにより、道路空間及び地域の価値向上に資するよう、道路特性に応じた緑化を行います。

道路毎の街路樹将来イメージは以下のとおりです。

(ア) 主要幹線道路①



図 主要幹線道路の将来イメージ①

近隣自治体との広域交通ネットワークを担う道路では、自然樹形を基本とした美しい樹形を維持することで、大阪を代表するシンボルロードにふさわしい風格のある緑豊かな道路景観を形成します。

対象路線（例）：御堂筋

(イ) 主要幹線道路②



図 主要幹線道路の将来イメージ②

近隣自治体との広域交通ネットワークを担い、主に商業系地域に配置される道路では、新緑や紅葉などの四季が感じられる美しい並木を維持することで、大都市大阪にふさわしい潤いや風格のある道路景観を形成します。

対象路線（例）：千日前通、中央大通、なにわ筋

(ウ) 主要幹線道路③



図 主要幹線道路の将来イメージ③

市内の地域交通ネットワークを担い、主に商業系地域に配置される道路では、美しい並木景観を維持することで、大都市大阪にふさわしい潤いや風格のある道路景観を形成します。

対象路線（例）：谷町筋、城北公園通、あびこ筋、淀川通

(エ) 商業系地域の道路①



図 商業系地域の道路の将来イメージ①

主に市街地再開発や区画整理事業等で広がりのあるエリアとして整備された地区内の主要道路では、高木による連続した並木による緑豊かな緑陰を形成することにより、魅力ある歩行者空間を創出しまちを活性化させます。

対象路線があるエリア（例）：OBP 地区、中之島地区、OMM 地区、大阪駅周辺地区

(オ) 商業系地域の道路②



図 商業系地域の道路の将来イメージ②

※商業系地域の道路の将来イメージ①よりは歩道幅が比較的狭い箇所のイメージ
主に再開発や区画整理事業で整備された地区内の各街区を結ぶ道路では、高木による連続した並木による緑豊かな緑陰を形成することにより、魅力ある歩行者空間を創出しまちを活性化させます。

対象路線があるエリア（例）：OBP 地区、中之島地区、OCAT 周辺、大阪駅周辺

(カ) 住居系地域の道路



図 住居系地域の道路の将来イメージ

住居系地域の各街区を結ぶ道路では、高木による連続した並木を形成することにより住宅地の景観に潤い、風格、個性を持たせます。歩道幅は比較的狭いことから、街並みにあったコンパクトな高木を植栽し、必要に応じて、花木や紅葉木等の植栽により四季を演出することで、市民に親しまれる潤いや憩いの場を提供します。

(キ) 狭小な生活道路（主に住居系地域）



図 狭小な生活道路の将来イメージ

住区内にある狭小な道路では、歩道が狭いことから、高木を植栽するための十分な植栽スペースを設けることができず、樹木の健全性を維持することが困難なことから、低木を中心とした道路緑化を推進します。

(ク) 工業系地域の補助幹線道路



図 工業系地域の補助幹線道路の将来イメージ

工業系地域に配置される補助幹線道路では、植栽間隔を広めにとること等により、自動車運転者の見通しを確保するとともに、隣接する緑豊かな工場緑地等と一体となった景観形成を図ります。

(4) まちづくりを実現するための公園種別毎の公園樹将来イメージ

① 植栽目的に応じた樹木管理

公園の整備にあたっては、はじめに公園種別及び規模により整備目的が定められ、次に、周辺の土地利用などを考慮して整備方針・整備内容が決定されます。植栽計画は当該公園の効果が最大限に発揮されるよう、整備方針に基づくゾーニング計画や施設配置計画とあわせて検討します。また、遊戯・観賞・憩い・散策・運動等の多目的な公園利用により発揮される利用効果のみならず、環境保全、景観形成、防災等の公園が存在することにより発揮される存在効果も検討したうえで決定されます。

こうした公園による効果を向上させるため、現状の利用状況等を考慮し、樹木管理を行う必要があります。

また、公園の規模が大きくなると、植栽目的も複雑になることから、よりきめ細かな樹木管理を行うことが求められます。市内において住区を踏まえ計画的に配置される、地域に身近な住区基幹公園の箇所数は、市内に設置された都市公園全体の約97%と大多数を占めることから、道路と同様に設置目的や公園規模ごとに公園樹の将来イメージを示します。

なお、都市基幹公園や大規模公園などでも、住区基幹公園と同様の機能（遊戯・観賞・憩い・散策・運動など）をもつ施設が整備され、同様の植栽目的をもつものもあることから、住区基幹公園で求められる樹木管理も参考にしながら樹木を管理する必要があります。また、大阪市指定文化財の庭園における樹木については、一般的な都市公園と比べて、より丁寧な管理が必要となります。

② 公園種別毎の将来イメージ

(ア) 日常的に利用される身近な公園

《街区公園》

■主な機能・役割、各空間における目的に応じた植栽例

住民に最も身近な公園であり、平常時には児童の遊び場、高齢者の運動、憩い・休息の場として、また非常時には一時的な避難場所となるなど、地域住民の日常的な公園利用の基本となる機能を有している。



写真 遊び場における木陰スペース



写真 園路の緑陰

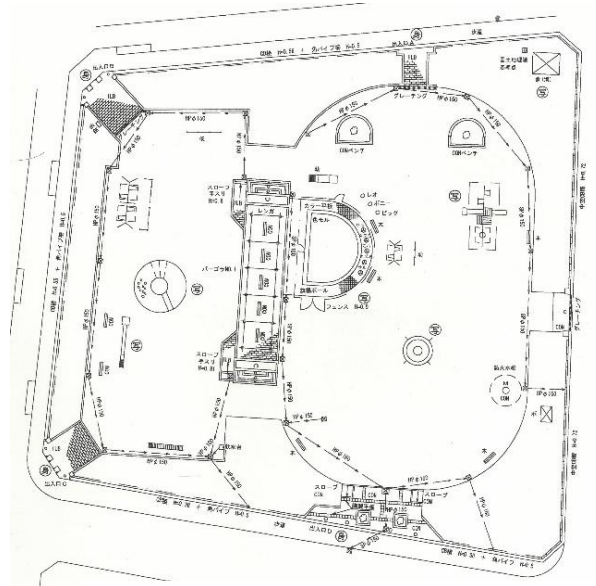


図 街区公園平面図（北区 長柄公園）



写真 出入り口付近の修景



写真 災害時に防災機能を有する外周樹木

■公園樹の将来イメージ

日常的に利用される公園として、主に遊び場や憩いの場、休息の場として利用されることが多いことから、公園内部の植栽は、子どもから高齢者までが快適に利用できるよう、施設配置を踏まえながら適度な緑陰を確保します。



図 街区公園の公園樹将来イメージ①

公園外周に植えられている植栽は、災害時の防災的な役割や周辺地域への修景的な要素をもつことから、緑量や樹冠を確保しつつ、民地や道路などの周辺施設と競合しないよう周辺環境との調和を図ります。



図 街区公園の公園樹将来イメージ②

(イ) 地域を代表し、活動拠点となる公園（近隣公園、地区公園）

《近隣公園》

■主な機能・役割、各空間における目的に応じた植栽例

主に近隣に居住する人の利用を目的とし、近隣住民の身近なスポーツを中心とした利用を想定した運動場・野球場・テニスコートなどの運動機能だけでなく、イベントで利用されることも想定した広場などがあり、近隣住民の地域の活動の場としての役割もあります。



遊び場における木陰スペース



園路の緑陰や公園内の修景

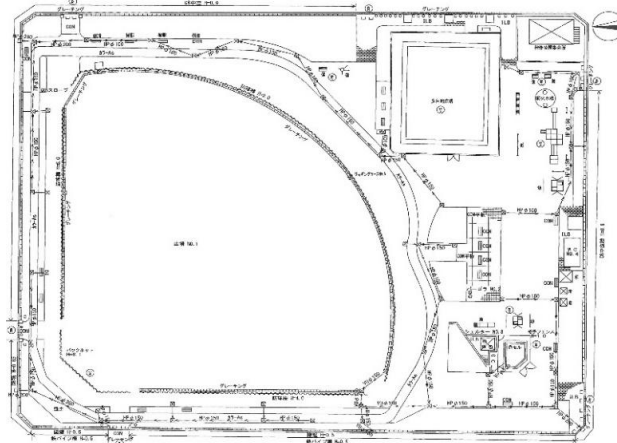


図 近隣公園平面図（平野区 鞍作公園）



写真 出入口付近の修景



写真 運動場外周の修景



写真 災害時に防災機能を有する外周樹木

《地区公園①》

■主な機能・役割、各空間における目的に応じた植栽例

主として、徒歩圏内の居住者の利用を目的とし、複数の小学校区をまたぐ、地区住民のスポーツを中心とした利用を想定し、運動場・野球場・テニスコートなどの運動機能だけでなく、イベントで利用されることも想定した広場などがあり、地区住民の地域の活動の場としての役割もあります。



写真 遊び場下の木陰スペース



写真 園路の並木道

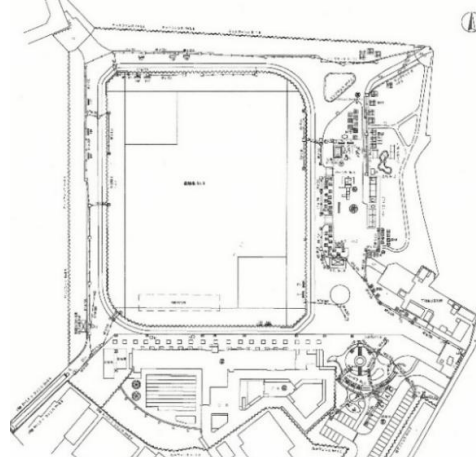


図 地区公園平面図（福島区 下福島公園）



写真 運動場外周の修景



写真 出入口付近の修景



写真 災害時に防災機能を有する外周樹木

《地区公園②》

■主な機能・役割、各空間における目的に応じた植栽例

地区公園には、地区公園①のように、スポーツ等のレクリエーション施設を主とした公園のほか、池などの修景施設を有し、休息・休憩の場となる施設を主とした公園もあります。



写真 遊び場下の木陰スペース



写真 園路の緑陰



図 地区公園平面図（住吉区 万代池公園）



写真 公園を特徴づけるシンボルツリー



写真 池周辺の修景



写真 歴史景観と一体となった樹木

■公園樹の将来イメージ

街区公園同様、日常的に利用される公園として、主に遊び場や憩いの場、休息の場として利用されることが多いことから、公園内部の植栽は子どもから高齢者まで快適に利用できるよう施設配置を踏まえながら適度な緑陰を確保します。



図 近隣公園・地区公園の公園樹の将来イメージ①

球技等や地域のイベントなどとして利用される広場や運動場の施設の周りには、樹木が植栽される場合が多く、園内の主要な景観構成要素となっています。地域の活動拠点にふさわしい魅力ある公園として、これらの樹木は施設配置を踏まえながら緑量や樹冠を確保するよう育成します。また、花の咲く樹木は、開花や結実等を考慮した管理を行います。



図 近隣公園・地区公園の公園樹の将来イメージ②

近隣公園や地区公園では、人が利用できる林がある場合もあることから、これらの場所では快適に利用できるよう適度な緑陰を確保します。



図 近隣公園・地区公園の公園樹の将来イメージ③

公園の顔となる出入口や人が多く利用する園路沿いなどでは、景観木や並木などの修景要素の高い樹木が多く植えられており、地域のシンボルとなっています。こうした樹木について、枝の透かし剪定などにより、美しい樹形や心地よい緑陰を形成します。



図 近隣公園・地区公園の公園樹の将来イメージ④



図 近隣公園・地区公園の公園樹の将来イメージ⑤

地区公園では、池沿いや川沿いの樹木や大規模な樹林など、その土地の風土の中で育まれた固有の景観があります。地域の活動拠点にふさわしい魅力ある公園として、これらの樹木もできる限り自然樹形での育成を行います。



図 近隣公園・地区公園の公園樹の将来イメージ⑥